

第二二九回ペン川柳会

令和五年六月二十六日

お題 「色」

■ 浜田（我々好）

ウイスキー

色気だけ未だ盛んな認知症
色ごとはもう卒業と傘寿の賀

■ 三春（火酒）

ウオツカ

妖婦よりコワイ妖婆の色仕掛け
痴話喧嘩昨日ツインで今日ダブル

■ 八木（明迷）

めいめい

色違い着てる上司もしまむらか
マドンナは髪紫にするなかれ

■ 稲宮（井波）

いなみ

抜き衣紋白きうなじの艶やかさ
色街を社用で寄れず悔い残る

■ 塚田（拿々）

だだ

下心！彼女ほんのり桜色
最近はブルー吐息が多くなり

■ 曾山（酩帝）

めいてい

色欲も尽きてしまつてあと何を
俺のこと色男だともっぱらだ

■ 安藤（晃二）

てるつぐ

シテイでは虹色の旗翩翩と
流し目に緋文字秘める女あり

■ 西川 (酔雅)
すいが

色と聴き桃色浮かべる八十路爺
兼題の「色」にときめく八十路爺

世話人 塚田 實(拿々)
ただ

■ 松谷 (零門)
れいもん

六昔「思いで色」は褪せもせず
五色沼画像見た孫「露天風呂？」

■ 大野 (だし)

革命か緑の強い世の中に
年を経て物や思うと一人旅

■ 山縣 (安兵衛)
やすべえ

色気より食い気が好きとダメ男
色々とあったがまあねこともなし